1890-1929 年の銀行建物に関する研究

五大銀行の建物外観に共通する建築要素について

A STUDY ON BANK BUILDINGS CONSTRUCTED BETWEEN 1890 AND 1929

Common architectural elements in the external appearances of the buildings of Japan's five major banks

中村 弘*, 篠崎 道彦**

Hiroshi NAKAMURA and Michihiko SHINOZAKI

The history of bank buildings in Japan commenced with the establishment of the First National Bank in 1872. To date, only minimal research on the historical changes in the bank buildings constructed between 1872 and present day has been conducted. Focusing on building exteriors, this study aims to examine the common architectural elements in the bank buildings constructed between 1890 and 1929. This study serves as an introductory account of the historical changes in the bank buildings constructed between 1872 and present day.

Keywords : Bank building, Common architectural elements, External appearance, Transition in bank architecture

銀行建物, 共通要素, 外観, 銀行建物の変遷

1. はじめに

1.1. 研究の背景

1872年に東京府兜町に建設された第一国立銀行（三井組ハウス）から始まった銀行建物は、明治期から現在までの間にどのような変化をしてきたのか。銀行は、明治以降、資本主義社会の成立に中心的な役割を果たしてきた。同時に、銀行にとって重要な経営資源である銀行建物（本店・支店）は、国内近代建築においても嚆矢としての役割を担っていたといえる¹⁾。国内銀行の草創期である明治期から大正期の銀行建物について設計者たちは、銀行業務の信頼性や資金力を伝えること、安心、堅実、威厳などの銀行イメージを表現することなどを提唱していた²⁾。1928年施行の銀行法により銀行業務が変化し、戦争を経た1950年代以降には、銀行らしい建物と銀行らしからぬ建物について、今後の銀行建物の方向性についてなどの議論がされていた³⁾。その後1996年からの金融制度改革による銀行業のパラダイムシフトにより、さらに銀行建物は変化してきている。そして銀行草創期に銀行らしいとされた建物が現在では見られなくなってきている。そこで1872年から140年以上に及ぶ銀行という一つの用途の建物について、通史的な変遷を概観したい事が本研究の背景である。歴史的な意匠と思潮を理解する事で新しいデザインを創出する観点から、今後の銀行建物に示唆を得るための端緒とする。

1.2. 既往研究

これまでも銀行建物については多くの研究がなされている。特定

地域の銀行に関する研究⁴⁾、建築家個人の研究における作品としての銀行⁵⁾、個別の銀行建物に関する研究⁶⁾、銀行建物の保存や解体および用途変更に関する研究⁷⁾、都市計画や街並みにおける銀行を対象とした研究⁸⁾などがある。また、経済地理学および人文地理学では銀行店舗の配置、店舗と地域的な関連についての研究⁹⁾がなされている。そして経済学においては銀行に関する多くの時期、全国および地域、また通史的網羅的に多くの研究がなされている。しかし銀行建物に関するこれまでの研究は、対象とする建物、地域、時期などが特定の範囲に限られており、通史的に銀行建物の変化を明らかにした研究はなされていない。

2. 研究の目的と方法

2.1. 研究の目的

銀行建物の通史的な変遷を明らかにするために、本研究の目的を、まず国内の初期の銀行建物とはどのような建物だったのかを明らかにすることとする。そこで本研究では、国内の商業銀行の始点である¹⁰⁾銀行条例が制定された1890年から、業法上銀行の公衆化の始まりとされる¹⁰⁾銀行法が施行された(1928年)翌年の1929年まで^{注1)}の銀行建物を対象として、銀行建物の外観に着目して、銀行建物に共通する建築要素について考察する。1872年から現代までの銀行建物全体の変遷を通史的に明らかにするための緒論とすることが本研究の意義である。

* 芝浦工業大学大学院 大学院生・修士(技術経営)

Grad. Stud., Graduate School of Engineering and Science, Shibaura Institute of Technology, M. M.O.T.

** 芝浦工業大学デザイン工学部 教授・工博

Prof., Dept. of Engineering and Design, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng.

2.2. 研究の方法

2.2.1. 研究対象

本研究では、以下の三点より、五大銀行¹¹⁾と呼称されていた三井、三菱、安田、住友、第一銀行を対象とする。①現時点で存続されていて¹²⁾、銀行業務、店舗沿革などについて設立から現在までの変遷を銀行資料で確認できる。②明治期以来、他の銀行に比べて金融上大きな影響力を及ぼしてきている¹³⁾(1928年の全国普通銀行に対する五行シェアは預金33.5%、貸出25.6%^{注2)})。③銀行建物の建設について、本部の営繕担当部署が管理して全国展開しているため設計概念・仕様が同質化されていると考えられる。その他、建物の設計・施工についても当時の国内主要な組織・企業が担当している。そして、五銀行の国内銀行業務におけるシェアおよび影響力から、業務用の建物についても牽引的な影響を及ぼしていたと推測する。

研究対象の期間は、国内銀行のあり方を発券銀行から商業銀行(普通銀行)へと転換させる始点としての銀行条例が制定された1890年から、業法上銀行の公衆(大衆)化が始まる銀行法施行(1928年)の翌年1929年(竣工・開業建物)までとする。銀行建物は、銀行の業務・営業(取引)を目的とした建物であるため、銀行業務の変化に影響を受けると考えられる。したがって、銀行業務の基準となる業法制度の画期を銀行建物の画期として研究対象期間を設定した。研究対象期間の銀行全体の一輪郭として、1890～1929年の五銀行の店舗数および国内銀行の銀行数と全店舗数をTable 1^{注3)}に示す。

Table 1 Quantity of five bank branches

年 和 暦	三井		三菱		安田		住友		第一		五行計		全銀行数	全店舗数
	店舗数	開業数	店舗数	開業数	店舗数	開業数	店舗数	開業数	店舗数	開業数	店舗数	開業数		
1890 M23	31	—	—	—	5	1	—	—	—	—	36	1	353	504
1891 M24	31	—	—	—	5	1	—	—	—	—	36	0	388	537
1892 M25	26	—	—	—	6	2	—	—	—	—	32	2	405	415
1893 M26	33	1	—	—	8	2	—	—	—	—	41	3	703	1,041
1894 M27	23	—	—	—	8	—	—	—	—	—	31	0	865	1,274
1895 M28	23	—	5	4	8	—	5	5	—	—	41	9	1,013	1,452
1896 M29	24	1	5	—	9	1	5	—	6	—	49	2	1,277	2,102
1897 M30	20	—	5	—	9	1	9	4	6	—	49	5	1,505	2,501
1898 M31	21	1	5	—	9	—	9	—	8	2	52	3	1,752	3,126
1899 M32	20	—	5	1	12	4	11	2	9	1	57	8	1,943	3,654
1900 M33	20	—	5	—	14	2	12	1	10	1	61	4	2,272	4,471
1901 M34	19	—	5	—	14	—	14	2	10	—	62	2	2,359	4,370
1902 M35	19	—	5	—	15	1	15	1	11	1	65	3	2,324	4,342
1903 M36	16	—	5	—	14	1	16	1	11	—	62	2	2,275	4,314
1904 M37	16	—	5	—	16	2	16	—	11	—	64	2	2,227	4,228
1905 M38	14	—	5	—	19	3	17	1	11	1	66	5	2,230	4,299
1906 M39	14	—	5	—	21	1	17	—	11	—	68	1	2,210	4,377
1907 M40	13	—	5	—	21	—	17	—	11	—	67	0	2,194	4,534
1908 M41	13	—	5	—	21	—	17	—	11	—	67	0	2,172	4,584
1909 M42	15	2	5	—	21	—	18	1	11	—	70	3	2,152	4,593
1910 M43	15	—	5	—	22	1	18	—	11	—	71	1	2,144	4,649
1911 M44	15	1	6	1	22	—	18	—	11	—	72	2	2,143	4,783
1912 M45	15	—	6	—	22	—	20	2	18	7	81	9	2,151	5,003
1913 T2	15	—	6	—	22	—	21	1	20	2	84	3	2,155	5,259
1914 T3	15	—	5	—	22	—	22	1	20	—	84	1	2,153	5,453
1915 T4	14	—	6	1	22	—	23	1	22	2	87	4	2,149	5,518
1916 T5	15	1	6	—	22	—	28	1	23	3	94	5	2,140	5,808
1917 T6	16	1	8	1	22	—	29	—	25	2	100	4	2,110	5,929
1918 T7	19	3	9	1	22	—	35	3	25	1	110	8	2,085	6,177
1919 T8	19	—	10	1	23	1	37	2	26	1	115	5	2,048	6,528
1920 T9	19	—	13	1	24	1	37	—	27	1	120	3	2,035	6,979
1921 T10	18	—	13	—	24	—	42	5	27	—	124	5	2,011	7,304
1922 T11	20	2	15	3	26	1	43	1	27	—	131	7	1,975	7,711
1923 T12	20	—	16	1	21	1	45	2	31	4	323	8	1,870	7,734
1924 T13	22	2	18	2	216	4	54	8	32	1	342	17	1,795	7,720
1925 T14	23	1	18	—	180	3	59	5	32	—	312	9	1,700	8,689
1926 T15	23	—	18	—	180	1	66	8	33	1	320	10	1,574	7,549
1927 S2	23	—	19	1	177	2	74	7	51	18	344	28	1,424	7,306
1928 S3	24	1	19	—	156	1	76	1	52	1	327	4	1,159	6,779
1929 S4	24	—	24	2	154	—	79	4	52	—	333	6	1,003	6,482
開業数合計	17	—	20	—	37	—	70	—	50	—	194	—	—	—

2.2.2. 研究方法

1890～1929年に五銀行が国内で新たに開業(新築・建替え)した支店・出張所は194件^{注3)}(Table 1: 三井17、三菱20、安田37、住友70、第一50。開店時は出張所で後に支店に昇格した店舗を含む。)である。そして1890～1929年に五銀行として建設された銀行建物のうち、銀行史¹⁴⁾、建築文献¹⁵⁾から図面、外観、内観に関する資料が確認できた121件(Table 2: 三井13、三菱10、住友45、安田26、第一27)を調査対象とする。統合・合併前の銀行建物(店舗)として建設され、統合・合併により五銀行の店舗となった建物は調査対象には含まない。また、1890～1894年の銀行建物については事例を確認できる資料がなかった。なお、1890～1894年に五銀行で開業された支店・出張所は6件(三井1、安田5)である。

Table 2 List of bank building

竣工年 建物(支店)名	所在地	資料					竣工年 建物(支店)名	所在地	資料									
		平面	他図	外観	内観	現在			平面	他図	外観	内観	現在					
1895	住友銀行本店(中之島)	27	×	×	○	×	×	1921	住友銀行天満支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1898	安田銀行秋田支店	05	×	×	×	○	×	×	住友銀行川口支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1899	住友銀行広島支店	34	×	×	×	○	×	×	住友銀行富島支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1900	三菱銀行神戸西支店	28	○	×	×	○	○	○	住友銀行西陣支店	26	×	×	×	○	×	×	×	
1901	住友銀行東京支店(常町)	13	×	×	×	○	○	○	住友銀行東松原支店	34	×	×	×	○	×	×	×	
1902	安田銀行大阪支店	27	×	×	×	○	×	×	三井銀行日本橋支店	13	○	○	○	○	○	○	○	
1903	第一銀行兜町南本店	13	○	×	×	○	×	×	住友銀行日本橋支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1904	住友銀行本店(今橋)	27	×	×	×	○	×	×	安田銀行玉島支店	33	×	×	×	○	×	×	○	
1905	安田銀行大阪支店	27	×	×	×	○	×	×	1922	三菱銀行小樽支店	01	×	×	×	○	△	○	
1906	第一銀行京都支店	26	○	○	○	△	○	○	三井銀行本店	13	×	×	×	○	○	×	×	
1907	住友銀行横浜支店	14	○	×	×	○	×	×	1923	住友銀行上町支店	27	×	×	×	○	×	×	
1908	第一銀行神戸支店	28	○	×	×	○	×	×	住友銀行蒲島支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1909	安田銀行浅草支店	13	×	×	×	○	×	×	住友銀行道頓堀支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1910	住友銀行尾道支店	34	×	×	×	○	×	△	住友銀行四谷支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1911	住友銀行京都支店	26	×	×	×	○	×	×	三井銀行若松支店	40	×	×	×	○	×	×	×	
1912	住友銀行備前支店(北西)	43	×	×	×	○	×	×	1925	三菱銀行京都支店	26	○	×	×	○	○	×	×
1913	第一銀行下関支店	35	○	×	×	○	×	×	住友銀行西野田支店	27	×	×	×	○	○	×	×	
1914	住友銀行博多支店	40	×	×	×	○	×	×	安田銀行浅草支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1915	三井銀行大阪支店	27	×	×	×	○	×	×	安田銀行銀座支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1916	第一銀行横浜支店	14	○	×	×	○	×	×	住友銀行小倉支店	40	×	×	×	○	×	×	×	
1917	第一銀行新大塚町支店	13	×	×	×	○	×	×	住友銀行名古屋支店	23	×	×	×	○	×	×	×	
1918	住友銀行呉支店	34	×	×	×	○	×	×	住友銀行麹町支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1919	住友銀行久留米支店	40	×	×	×	○	×	×	住友銀行高崎支店	43	×	×	×	○	×	×	×	
1920	三井銀行大阪支店	27	×	×	×	○	×	×	三井銀行広島支店	34	○	○	○	○	△	△	△	
1921	第一銀行深川支店	13	○	×	×	○	×	×	第一銀行本町支店	27	○	×	×	○	×	×	×	
1922	住友銀行兵庫支店	28	×	×	×	○	×	×	安田銀行山鹿支店	43	×	×	×	○	△	△	△	
1923	三井銀行名古屋支店	23	×	×	×	○	×	×	1926	安田銀行高崎支店	10	×	×	×	○	×	×	×
1924	安田銀行八幡支店	40	×	×	×	○	△	△	第一銀行久留米支店	40	○	×	×	○	×	×	△	
1925	第一銀行大阪支店	27	×	×	×	○	×	×	安田銀行浅草支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1926	住友銀行呉支店	34	×	×	×	○	×	×	第一銀行福島銀行	07	×	×	×	○	△	△	△	
1927	三井銀行大阪支店	27	×	×	×	○	×	×	安田銀行銀座支店	27	○	×	×	○	×	×	×	
1928	第一銀行大阪支店	27	×	×	×	○	×	×	安田銀行神戸支店	28	×	×	×	○	×	×	×	
1929	第一銀行門司支店	35	○	×	×	○	×	×	住友銀行新宿支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1930	第一銀行福岡支店	40	○	×	×	○	×	×	住友銀行本店(北西)	27	×	×	○	○	○	○	○	
1931	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行本津支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1932	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行立売堀支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1933	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	1927	第一銀行名古屋支店	23	○	×	×	○	×	×	×
1934	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	第一銀行丸太町支店	26	○	×	×	○	×	×	○	
1935	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	三井銀行駒込支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1936	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	三井銀行小樽支店	01	×	×	×	○	△	△	△	
1937	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行四貴島支店	27	×	×	×	○	×	×	×	
1938	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	1928	第一銀行駒込支店	13	○	×	×	○	×	×	×
1939	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	安田銀行青山支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1940	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	第一銀行本所支店	13	○	×	×	○	×	×	×	
1941	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	第一銀行札幌支店	01	○	×	×	○	×	×	×	
1942	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	第一銀行雷門支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1943	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	安田銀行京都支店	26	×	×	×	○	×	×	×	
1944	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	安田銀行鹿児島支店	46	×	×	×	○	×	×	×	
1945	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	安田銀行小舟町支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1946	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行浅草支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1947	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行大塚支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1948	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行白山支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1949	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行白土支店	34	×	×	×	○	×	×	×	
1950	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	1929	安田銀行桐生支店	10	×	×	×	○	×	×	×
1951	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	第一銀行横浜支店	14	○	×	×	○	△	△	△	
1952	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	第一銀行麻布支店	13	○	×	×	○	×	×	×	
1953	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	第一銀行銀座支店	13	○	×	×	○	×	×	×	
1954	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	安田銀行博多支店	40	×	×	×	○	×	×	×	
1955	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	住友銀行人形町支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1956	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	三菱銀行神田支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1957	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	三井銀行本店	13	○	×	×	○	○	○	○	
1958	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	安田銀行横浜支店	14	×	×	×	○	△	△	△	
1959	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	三菱銀行名古屋支店	23	×	×	×	○	×	×	×	
1960	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	三菱銀行水代橋支店	13	×	×	×	○	×	×	×	
1961	第一銀行横浜支店	10	×	×	×	○	×	×	三菱銀行神戸支店(明石町)	28	×	×	×	○	×	×	×	

本研究では、1890～1929年の銀行建物の外観に着目して、どのような建築要素が共通しているのかを調査分析することで初期の銀行建物について考察する。明治政府による殖産興業政策の一環として導入された西欧の（古典主義）様式建築は、おおむねヨーロッパ19世紀の折衷主義に属するとされている¹⁶⁾。明治政府が招聘した外国人技師はすべて19世紀の建築界における折衷主義の技師であり¹⁶⁾、来日した外国人建築家のなかで日本の近代建築に大きな影響を与えたJ.コンドルについても「典型的な19世紀折衷主義建築家であって、その扱うモチーフは、初期ルネサンス、エリザベサン、ジャコビアン、ジョージアン、ヴィクトリアンそのほかに及び、これらをほとんど自由に取捨し組合わせ整理して一つの建物にまとめあげる。」¹⁶⁾とされている。したがって調査期間の銀行建物についても、一つの建物の外観が統一された建築様式で構成されているとは限らない。また、明治・大正期の社会では建築の様式が認識されていたとは考え難く¹⁷⁾、銀行建物を見る側も様式を見ていたのではなく建物の外観的な特徴を認識していたと推測する。よって本研究では、古典様式から建物外観に関する建築要素を抽出して、銀行建物の事例と照合する。その結果から、1890～1929年の銀行建物の外観に共通する建築要素について考察することとする。なお、研究対象期間における銀行建物の設計については、古典主義様式を取り入れること、折衷主義でどのようにデザインするのかが設計の主要であると考えられていた¹⁸⁾。よって、設計者の特定や分類、設計者の意匠的な特徴等に関する調査は、本論の研究目的とは直接的な関連性が低いため、本論では設計者を尺度とした調査は研究範囲に含めない。

3. 建築要素の抽出と照合

3.1. 建築要素の抽出

調査対象期間の国内建築および建築様式に関する文献^{19) 20)}から、調査期間の年代に確認されている建築様式を以下の通り抽出した。ギリシャ様式、ローマ様式、バロック様式、ルネサンス様式、パラディアン様式、ジョージアン様式、アメリカン・ボザール様式、ジャコビアン様式、エリザベサン様式、ゴシック様式、ビザンチン様式、サラセン様式、チューダー様式、クィーン・アン様式、フリー・クラシック様式、セセッション、アール・ヌーヴォー、ユエグント・シュティル、表現主義、モダニズム、無装飾主義を抽出した^{注4)}。なお、復興様式（ネオ・ルネサンス様式、ネオ・バロック様式、ネオ・ゴシック様式）については、もとの古典様式（ルネサンス様式、バロック様式、ゴシック様式）の建築要素の意匠的な派生（模倣や変形）であることから、古典様式に含むものとした。また、研究対象を銀行建物としていることから、住宅建築に関する建築様式については抽出していない。抽出した建築様式から、調査期間の建築様式に関する文献^{19) 20)}、建築様式と建築要素に関する文献^{21) 22)}および調査対象の銀行建物（事例）をもとに、以下の銀行建物にかかわる建築要素を抽出した。ペロン、ボルティコ（門型出入口）、オーダー（ピラスター）、ペディメント（エディキュラ）、パラディアン窓、勾配屋根（マンサード、寄棟）、ルスティカ、ベースメント、コーニス（ストリングコース、モディリオン）、欄干、レリーフ（彫像、彫刻）、アーチ（尖塔アーチ）、平屋根、切妻壁、ドーム、胸壁（パラペット、バトルメント、アチック）、隅櫓（塔）、アーチ、以上17

Table 3 Architectural elements

①角地	②窓防護	③外装石	④ルスティカ	⑤ベースメント
⑥ペロン	⑦ボルティコ	⑧オーダー	⑨コーニス	⑩ペディメント
⑪パラディアン窓	⑫欄干	⑬レリーフ	⑭アーチ	⑮平屋根
⑯勾配屋根	⑰切妻壁	⑱胸壁	⑲隅櫓	⑳ドーム

項目の建築要素（括弧内の要素を含む）を抽出した。なお、本研究では国内の初期の銀行建物に共通する古典様式の建築要素を考察するため、1920年以降の近代建築運動から発生したセセッション、アール・ヌーヴォー、ユグント・シュティル、表現主義、モダニズム、無装飾主義からの建築要素の抽出はしていない。また、オーダーについては、柱身と様式柱頭（ドリス、イオニア、コリント、トスカナ、コンポジット）の組合せを対象とする。

建築様式から抽出した建築要素と合わせて、銀行建物の外部に関する機能的な要素として、角地、窓防護（格子・鎧戸）、外装石の3項目を建築要素に加えた。角地については、葛西、西村が平面計画と外観上の理由から銀行建物の敷地条件として角地の重要性を指摘している²³⁾²⁴⁾。窓防護は、銀行建物に特有の建築要素といえる。葛西は、顧客に与えるイメージと建物の防犯箇所の優先順位などから厳重な鉄格子は設置しない方が良いとしている²³⁾。一方、西村は銀行室の業務のために窓防備を施した採光用窓の必要性を指摘している²⁴⁾。銀行建物の外装仕上げについては、銀行イメージの表現、銀行としての防火性および都市計画上の防火区画として花崗岩などの石材が好ましい²⁵⁾とされていた。

以上、銀行建物の外観に関する建築要素として以下の①～⑳（括弧内の形状含む）を抽出してTable 3に纏めた。①角地、②窓防護（格子、鎧戸）、③外装石、④ルスティカ、⑤ベースメント、⑥ペロン（門型出入口）、⑦ポルティコ、⑧オーダー（ピラスター）、⑨コーニス（ストリングコース、モディリオン）、⑩ペディメント（エディキュラ）、⑪パラディアン窓、⑫欄干（バルコニー手すり）、⑬レリーフ（彫像、彫刻）、⑭アーチ、⑮平屋根、⑯勾配屋根（マンサード、寄棟）、⑰切妻壁、⑱胸壁（パラペット、バトルメント）、⑲隅櫓（塔）、⑳ドーム。

3.2. 建築要素の照合

①～⑳の建築要素について、Table 2の銀行建物事例121件と照合して（例：Fig. 1）、建物外観における有無を確認した。事例数に対する調査項目の採用数を「要素有の建物数／照合建物数」として20項目の年別照合結果をTable 4に纏めた。なお、資料で確認できない調査項目については照合建物数から除外した。そして、Table 4から建築要素ごとの1890～1929年の採用率の推移をFig. 2、Fig. 3に纏めた。採用率の推移を分析するため、建築要素の採用数を3年毎に集計した。但し1890年～1899年については事例数が3件のため1900年に組み入れた。Fig. 2に全体の採用率 $\geq 50\%$ 、Fig. 3に全体の採用率 $< 50\%$ （採用事例0の⑪パラディアン窓は除外）の建築要素について、採用率を時系列に纏めた。

Fig.1 Verification of architectural elements.注5)

Table 4 Result of contrast

年	事例数	①角地	②窓防護	③外装石	④ルスティカ	⑤ベース	⑥ペロン	⑦ポルティコ	⑧オーダー	⑨コーニス	⑩ペディメント	⑪パラ窓	⑫欄干	⑬レリーフ	⑭アーチ	⑮平屋根	⑯勾配屋根	⑰切妻壁	⑱胸壁	⑲隅櫓	⑳ドーム
1895	1	-	1/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1
1898	1	-	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1
1899	1	0/1	0/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	0/1	0/1	1/1	1/1	1/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1
1900	2	2/2	1/2	2/2	1/2	1/2	1/2	0/2	1/2	2/2	0/2	0/2	1/2	1/2	2/2	1/2	1/2	1/2	1/2	0/2	0/2
1901	3	2/2	2/3	2/3	1/3	3/3	2/3	1/3	2/3	3/3	2/3	0/3	0/3	1/3	2/3	0/2	2/2	2/3	1/2	2/3	1/3
1902	2	1/2	1/2	2/4	1/2	1/2	2/2	1/2	0/2	1/2	1/2	0/2	1/2	1/2	1/2	0/2	2/2	1/2	1/2	0/2	1/2
1903	2	1/2	0/2	2/5	1/2	0/2	1/1	0/2	1/2	2/2	1/2	0/2	0/2	2/2	2/2	2/2	0/2	0/2	2/2	0/2	0/2
1904	3	1/2	3/3	2/6	2/3	3/3	3/3	0/3	2/3	3/3	1/3	0/3	0/3	3/3	2/3	0/3	3/3	2/3	1/3	2/3	1/3
1905	1	0/1	1/1	2/7	0/1	1/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1
1906	1	1/1	1/1	2/8	0/1	1/1	1/1	0/1	0/1	1/1	1/1	0/1	1/1	1/1	1/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1
1908	3	2/2	1/3	2/9	0/3	2/3	2/3	1/3	2/3	2/3	2/3	0/3	0/3	1/3	2/3	0/3	3/3	1/3	1/3	2/3	2/3
1909	2	2/2	0/2	2/10	1/2	1/2	2/2	0/2	2/2	2/2	1/2	0/2	0/2	2/2	1/2	1/2	1/2	2/2	1/2	0/2	0/2
1911	4	3/3	2/4	2/11	1/4	3/4	4/4	1/4	3/4	4/4	2/4	0/4	3/4	3/4	3/4	1/4	3/4	3/4	3/4	2/4	2/4
1912	1	1/1	0/1	2/12	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	1/1	1/1	1/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1
1913	1	-	0/1	2/13	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	0/1	1/1	0/1	0/1	0/1	0/1
1914	2	2/2	1/2	2/14	2/2	2/2	2/2	0/2	2/2	2/2	2/2	0/2	1/2	2/2	1/2	1/2	1/2	0/2	1/2	0/2	0/2
1915	4	3/4	3/4	2/15	2/4	4/4	4/4	0/4	4/4	4/4	1/4	0/4	0/4	4/4	1/4	2/4	2/4	4/4	4/4	0/4	1/4
1916	2	2/2	1/2	2/16	1/2	2/2	2/2	1/2	2/2	2/2	1/2	0/2	1/2	2/2	0/2	1/2	1/2	1/2	2/2	1/2	2/2
1917	3	2/3	2/3	2/17	0/3	1/3	2/3	1/3	3/3	3/3	0/3	0/3	1/3	3/3	2/3	2/3	2/3	0/3	3/3	0/3	2/3
1918	2	0/2	2/2	2/18	0/2	0/2	2/2	0/2	2/2	2/2	0/2	0/2	0/2	2/2	1/2	2/2	0/2	1/2	2/2	1/2	0/2
1919	4	2/3	3/4	2/19	1/4	3/4	3/4	1/4	0/4	3/4	2/4	0/4	1/4	2/4	3/4	2/4	2/4	1/4	1/4	1/4	0/4
1920	5	3/3	2/5	2/20	1/5	5/5	5/5	0/5	5/5	4/5	2/5	0/5	1/5	4/5	4/5	5/5	0/5	1/5	4/5	0/5	0/5
1921	12	6/11	6/12	2/21	5/12	9/12	11/12	3/11	7/12	10/12	2/12	0/12	2/12	9/12	8/12	10/12	2/12	2/12	9/12	0/12	1/12
1922	2	2/2	2/2	2/22	1/2	1/2	2/2	1/2	2/2	2/2	1/2	0/2	0/2	1/2	0/2	2/2	0/2	0/2	1/2	0/2	0/2
1923	3	2/3	2/3	2/23	1/3	2/3	3/3	0/3	0/3	3/3	0/3	0/3	0/3	2/3	2/3	3/3	0/3	1/3	2/3	0/3	0/3
1924	5	4/5	4/5	2/24	2/5	5/5	5/5	1/5	1/5	4/5	1/5	0/5	1/5	3/5	3/5	3/5	2/5	0/5	1/5	0/5	0/5
1925	11	11/11	11/11	2/25	3/11	7/11	10/11	1/11	6/11	1/11	3/11	0/11	3/11	8/11	6/11	10/11	1/11	0/11	5/11	0/11	0/11
1926	9	8/9	6/9	2/26	4/9	5/9	9/9	1/9	7/9	8/9	5/9	0/9	1/9	5/9	5/9	7/9	1/9	0/9	2/7	0/9	0/9
1927	5	5/5	3/5	2/27	1/5	4/5	4/5	0/5	1/5	5/5	0/5	0/5	1/5	4/5	4/5	4/5	1/5	0/5	1/5	0/5	0/5
1928	12	9/12	8/12	2/28	1/12	6/12	9/10	1/12	8/12	12/12	2/12	0/12	0/12	8/12	7/12	12/12	0/12	0/12	6/12	1/12	0/12
1929	12	11/12	8/12	2/29	7/12	10/12	12/12	1/12	11/12	12/12	5/12	0/12	1/12	7/12	6/12	12/12	0/12	0/12	6/12	0/12	0/12
合計採用数		88/110	78/121	90/121	41/121	84/121	105/118	18/120	75/121	99/121	40/121	0/121	22/121	83/121	71/121	83/120	37/120	20/121	62/119	13/121	13/121
採用率%		80.0	64.5	74.4	33.9	69.4	89.0	15.0	62.0	81.8	33.1	0.0	18.2	68.6	58.7	69.2	30.8	16.5	52.1	10.7	10.7

4. 考察

調査対象とした 1890 年から 1929 年に建設された五銀行の建物について、機能的な要素を含む様式に関する 20 項目の建築要素の有無を照合した結果について Table 4 および Fig. 2, Fig. 3 をもとに考察する。

4.1. 考察 1

Table 4 より、全体での採用率の順位は次の通り。1. ⑥ペロン、2. ⑨コーニス、3. ①角地、4. ③外装石、5. ⑤ベースメント、6. ⑮平屋根、7. ⑬レリーフ、8. ②窓防護、9. ⑧オーダー、10. ⑭アーチ、11. ⑱胸壁、12. ④ルスティカ、13. ⑩ペディメント、14. ⑯勾配屋根、15. ⑫欄干、16. ⑦切妻壁、17. ⑦ボルティコ、18. ⑮隅櫓・②ドーム、20. ⑪パラディアン窓、の順である。採用率でみた場合、角地、ペロン、コーニスは全体の 80%以上で、外装石は全体の 70%以上の銀行建物で採用されている。また、窓防護、ベースメント、オーダー、レリーフ、平屋根は全体の 60%以上、アーチと胸壁は全体の 50%以上の銀行建物で採用されている。

Fig. 2 より、①～⑯建築要素の採用率の推移に関する考察は以下の通り。①角地は 1900～1929 年の間つねに 50%以上、1911 年以降は 60%以上で推移している。②窓防護は 1917 年までは採用率に変化（増減）があるが、1917 年以降は 60%以上（1923 年のみ 58.8%）で推移している。③外装石は 1903 年のみ 50%以下となるが、比較的安定した増加傾向で 1923 年以降は 70%以上で推移している。⑤ベースメントは 1900～1929 年の間つねに 50%以上、1917 年以降は 60%以上で推移している。⑥ペロンは、1903 年以降つねに 70%以上、

Fig. 2 Transition graph of architectural elements I

Fig. 3 Transition graph of architectural elements II

1914 年以外は 80%以上で推移している。⑧オーダーは 1911 年以降 50%で推移しているが、増減の変化があり、1917 年以外は 70%を超えていない。⑨コーニスは 1926 年以外つねに 60%以上で、ペロンに次いで安定的に推移している。⑬レリーフは 1906～1929 年の間 60%以上で推移している。⑮平屋根は 1906 年以降増加傾向となり、1920 年以降は 80%以上で推移している。Fig. 3 の⑯勾配屋根とは逆相関を示している。⑭アーチは 1914～1917 年に 50%以下となる以外は、60%前後で推移している。⑱胸壁は 1900～1929 年の間 20～100%で増減が連続している。そして全体としては 1920 年以降、①角地、②窓防護、③外装石、⑤ベースメント、⑥ペロン、⑧オーダー、⑨コーニス、⑬レリーフ、⑮平屋根、⑭アーチの建築要素は、およそ 60%以上（⑭アーチのみ 56.0～58.8%）の銀行建物の外観に共通する傾向で収束していることが示された。また Fig. 3 より、1920 年以降、⑦ボルティコ、⑫欄干、⑯勾配屋根、⑰切妻壁、⑲隅櫓、⑳ドームの建築要素は、銀行建物での採用率が 30%以下、④ルスティカと⑩ペディメントは 40%以下の傾向で収束している。

以上より、角地、窓防護、外装石、ベースメント、ペロン、オーダー、コーニス、レリーフ、平屋根、アーチの建築要素が 1920 年前後から銀行建物の外観に共通するようになったと考えられる。

4.2. 考察 2

古典様式では、コーニスはオーダーを構成するベース、コラム、エンタブラチュアの中の一つの建築要素とされている。そして本来はオーダーのシステムの一部として建物の外観に用いられる建築要素である。しかし照合調査結果 (Table 4) では、コーニスの採用率 (81.8%) とオーダーの採用率 (62.0%) に 19.8 ポイント差がある。すなわち 19.8%の銀行建物では、コラムはないがコーニスが採用されていることになる。この点から、コーニスは従来の様式のシステムの一部ではなく、エンタブラチュアとは切り離されて単独で外観に採用されていたことが示された。ちなみに古代エジプト建築様式のコーニスは、「神殿の壁や塔門の頂上に沿って造られる、突き出した線型の装飾²²⁾」として独立した建築要素とされていた。また、調査対象とした銀行建物の 50%以上の外観に共通する建築要素のうち銀行の機能面から抽出した 3 要素以外のペロン、オーダー、ベースメント、コーニス、レリーフ、平屋根、アーチ、胸壁の 8 要素については、クラシック様式、ルネサンス様式、ゴシック様式の建築要素である。銀行建物の外観に共通する建築要素に関して、特定の様式から抽出されている傾向はみられないと考えられる。

以上より、折衷主義とされる明治・大正期の銀行建物では、建築様式だけではなく建築要素についても取捨し組み合わせ整理されてつくられていたことが示された。

4.3. 考察 3

全体の 60%以上の銀行建物で採用されていた建築要素 9 項目に関して、照合調査過程および照合結果 (Table 4, Fig. 2, Fig. 3) より以下の考察をした。角地については、葛西、西村らが銀行建物の敷地条件として角地の重要性を提言している。果たして設計者だけではなく、建築主である銀行でも角地に店舗を建設することによる平面計画と銀行業務・営業への影響および街並みにおける外観（銀行の広告効果）など、その機能面での重要性を認識していたと考えられる。窓防護は、銀行業が社会的に認識されたことで必要となった銀行特有の防犯機能としての建築要素といえる。窓防護の是非につ

いては設計者によって意見が分かれている。銀行建物では、機能的な建築要素である窓防護が、建物外観全体と整合させるために意匠性が考慮されるようになったと考えられる。建物外装石は、防火性・防犯性・耐久性の機能的な目的と、重厚、信頼感などの銀行イメージを表現する意匠的な目的をもった建築要素であったといえる。自然石仕上げではない銀行建物では、煉瓦、タイル貼り、煉瓦やタイルと石の組合せなどの外装が確認された。ベースメントは本来地階が地上部に表出した部分であるが、調査では地階がない銀行建物でも形状として確認された。営業室内側の腰壁高さを確保（内装保護と防犯）することにより、結果的に前面道路に対する防犯と建物を保護する機能性がベースメントに付加されたことが、採用されるようになった一因と考えられる。銀行建物のアプローチについて西村は、顧客が入りやすいように玄関入口には階段が全くないことがよいとしている²⁴⁾。しかし調査では、道路の砂塵や泥^{注6)}などが建物内へ流入するのを防ぐ機能と、顧客が最初に接触する空間（威厳を表現する）の意匠として、門型と数段の階段とブラットフォームで構成されたペロンが確認された。古典様式のオーダーでは柱身柱頭とエンタブレチュアは不可分とされているが、調査対象の銀行建物では柱身柱頭のみや、半円柱、ピラスターの設置が確認された。柱身柱頭については、様式規定の建築オーダー²⁶⁾とは異なる比例形状や、建物全体の様式や意匠とは合致しない柱身柱頭も確認された。また建物の規模にかかわらず採用されていて、構造上の柱としてではなく意匠的な建築要素として採用されていることが確認された。調査対象の銀行建物では、オーダーを構成する建築要素としてのコーニスと、オーダーとは切り離された建物頂部の突出したコーニスやストリングコース（同蛇腹）などが確認された。オーダーと切り離されたコーニスは、建物の外壁を保護するための水切り（笠木）という機能的な建築要素として採用されていたと考えられる。レリーフはペディメントのティンパヌムやアーキトレーブだけではなく、出入口や開口部の周り、切妻壁や外壁面に確認された。レリーフのデザインは、古典様式のモチーフや企業に関連するモチーフが確認された。また、ブルズアイ、欄干やコーニスの上部の彫像や壺の装飾なども確認された。調査建物の平屋根は、コーニス、欄干、胸壁などと組み合わせて採用されている事例が確認された。外観資料による照合のため、ごく緩い勾配の屋根（見えない場合）は平屋根として検証している。平屋根は、建築技術の変化に伴う防水機能、銀行建物の外観全体に影響する意匠的な建築要素として採用されていたと考える。なおFig. 2, Fig. 3 から、平屋根は勾配屋根の採用率と負の相関関係の傾向が示された。

全体の60%以上の銀行建物で採用されていた建築要素9項目のうち、オーダーとレリーフの2項目は装飾性以外に建築的な機能性を持たない建築要素といえる。その他の建築要素7項目のうち角地、窓防護、外装石は銀行業務の機能的な建築要素として調査対象としたものである。そしてペロン、コーニス、ベースメント、平屋根の4項目については、それぞれ様式としてのかたち（装飾性）だけではなく、銀行建物における機能性を兼備している建築要素といえる。1890～1929年の銀行建物に共通する建築要素については、様式的なかたち（装飾性）と機能を併せもっていたことが共通の建築要素となった（60%以上の銀行建物で採用された）一つの要因ではないかと考察する。それらの要因については、今後の検証課題である。

5. 結論

5.1. 銀行建物の外観に共通する建築要素

明治期の古典主義様式の建築は折衷主義とされることから、本論では古典主義様式から建物外観を構成する建築要素を抽出して、1890～1929年に建設された五大銀行の建物と照合して、銀行建物に共通する建築要素について検証した。

その結果、角地、窓防護、外装石、ベースメント、ペロン、オーダー、コーニス、レリーフ、平屋根が1890～1929年の五大銀行の60%以上の建物に共通する建築要素であることを明らかにした。またアーチについても58%以上の銀行建物に共通する建築要素であることを明らかにした。そしてそれらの建築要素は、1920年前後からおよそ6割以上の銀行建物の外観に見られるようになったことが明らかになった。

またオーダーとコーニスに関する調査結果からは、調査期間の銀行建物では建築様式の折衷だけではなく、建築様式を構成する建築要素についても、個別に取捨、組合せ、整理されて、銀行建物の外観がつくられていることが確認された。

銀行業における調査期間の五銀行の影響力を考えると、銀行建物についても他の国内の銀行建物に影響をおよぼしたと推測される。

5.2. 今後の課題

本論の結論を踏まえて今後の課題を摘記する。

本論では、国内の初期の銀行建物とはどのような建物であったのかを明らかにするために、1890～1929年に建設された銀行建物の外観に着目して、共通する建築要素について検証した。本論では、はじめに研究対象を五銀行（三井、三菱、安田、住友、第一）の範囲に設定したが、五銀行以外の普通銀行および普通銀行以外（種別）の銀行（国立、特殊、農工、貯蓄）建物を研究対象に含めた検証が必要である。また、銀行建物の外観に関する五銀行ごとの特徴、共通点や相違点などの調査・分析、銀行の種類別の調査・分析、銀行建物の設計者を尺度に加えた調査・分析も今後の課題といえる。

本論で明らかにした1890～1929年の銀行建物に共通する建築要素が、1930年以降どのように変化したのか、1930年以降の銀行建物に共通する建築要素を含めた検証が必要である。また、必ずしも銀行建物に独自の建築要素であるとは限らない銀行建物に共通する建築要素が、1950年代以降の銀行らしい建物のイメージとどう関係するのかを検証すること。そのために、同時期の他用途の建物にある建築要素とその1930年以降の変化について、銀行建物の建築要素との比較を含めた検証が必要である。

また、銀行建物に共通する建築要素に関する要因、なぜ共通するようになったのかを明らかにすること。建物の目的である銀行業務の変化が銀行建物のかたちにどのような影響を及ぼすのか、銀行制度を含めた銀行業務や銀行の社会的役割の変化と銀行建物の変化の関係を検証することが必要である。さらに、銀行建物の変化と建築技術や建築文化の変化、地域性との関係など重層的多面的な調査・分析も今後の課題である。

以上の課題を検証することにより、1872年から現在に至る銀行建物の通史的な変遷を明らかにしたい。

参考文献

1) 田中誠：銀行とその建築，銀行店舗 第一巻，pp. 184-189，近代セールス社，1964. 6

2) 曾禰達藏，葛西萬司，池田稔：建築世界，第九巻第四号，現代模範建築銀行会社号，pp. 10-23，pp. 37-40，建築世界社，1915. 4

3) 銀行 7 題：建築文化，1953 年 10 月号 Vol. 84，pp. 24-25，1953. 10
銀行店舗の明日への課題（座談会：石川留巳之，飯野公一，玉川陽太郎，塩原祐三郎）：銀行店舗 第一巻，pp. 196-202，近代セールス社，1964. 6

4) 溝口正人，向口武志，柳澤宏江：愛知県下における明治末・大正の銀行建築の意匠，日本建築学会東海支部研究報告集，第 49 号，pp. 705-708，2011. 2

5) 西澤孝彦：建築家中村與資平の経歴と建築活動について，日本建築学会計画系論文報告集，第 450 号，pp. 151-160，1993. 8

6) 駒木定正：日本銀行小樽支店(明治 45 年)の主要構造と仕様，日本建築学会計画系論文集，第 471 号，pp. 139-146，1995. 5
片野博：旧報徳銀行直方支店の構造・構法的特徴，日本建築学会計画系論文集，第 482 号，pp. 85-94，1996. 4

7) 曾根陽子，安藤真由子：銀行建物の用途変更に関する研究，日本建築学会技術報告集，第 15 巻，第 31 号，pp. 855-858，2009. 10

8) 志水英樹，谷口汎邦，宮本文人：大都市において銀行建築が構成する街並の物的属性について，日本建築学会計画系論文報告集，第 375 号，pp. 64-75，1987. 5

9) 阿部和俊：1896 年-1940 年におけるわが国の銀行支店網について，経済地理学年報，第 26 巻 第 2 号，pp. 78-91，1980. 9
吉津直樹：明治期～第二次大戦前における金融網の地域的展開過程-「五大銀行」を中心として-，経済地理学年報，第 26 巻 第 2 号，pp. 57-77，1980. 9

10) 東京銀行協会図書館（世良裕一）：わが国銀行の歴史と変遷（第 1 回：明治・大正期），金融，732 号，pp. 49-62，全国銀行協会，2008. 4
東京銀行協会図書館（世良裕一）：わが国銀行の歴史と変遷（第 2 回：昭和初～20 年 8 月），金融，733 号，pp. 35-44，全国銀行協会，2008. 5

11) 後藤新一：日本の金融統計，pp. 89-91，東洋経済新報社，1960. 7
そのほか各銀行史、三井銀行八十年史（1957. 11）、三菱銀行史（1954. 8）住友銀行史（1955. 11）において五大銀行の表記あり。

12) （社）全国銀行協会 銀行図書館，銀行変遷史データベース
三井銀行→1990. 4 太陽神戸三井銀行→1992. 4 さくら銀行→2001. 4 三井住友銀行
安田銀行→1948. 10 富士銀行→2002. 4 みずほ銀行
第一銀行→1981. 10 第一勧業銀行→2002. 4 みずほ銀行
三菱銀行→1996. 4 東京三菱銀行→2006. 1 三菱東京 UFJ 銀行
住友銀行→2001. 4 三井住友銀行

13) 吉津直樹：明治期～第二次大戦前における金融網の地域的展開過程 - 「五大銀行」を中心として - ，経済地理学年報，第 26 巻 第 2 号，p. 58，1980. 9

14) 三井銀行内 小林忠太郎：三井銀行五十年史，三井銀行，1926. 9
三井銀行八十年史編纂委員会：三井銀行八十年史，三井銀行，1957. 11
三菱銀行史編纂委員会：三菱銀行史，三菱銀行，1954. 8
住友銀行史編纂委員会：住友銀行史，住友銀行，1955. 11
住友銀行：住友銀行創立四十周年記念写真帖，住友銀行，1935. 11
安田銀行六十周年記念事業委員会：安田銀行六十年誌，安田銀行，1940. 9
第一銀行内 長谷井千代松：第一銀行五十年小史，第一銀行，1926. 8
第一銀行八十年史編纂室：第一銀行史（上下巻），第一銀行，1958.

15) 高梨由太郎：建築寫眞類聚 銀行會社，巻一・二・四・六，洪洋社，1916. 4～1926. 9
西村好時：銀行建築，丸善，1933. 12
中村勝哉：西村好時作品譜，城南書院，1950. 11
長谷部竹腰建築事務所：長谷部竹腰作品集，城南書院，1943. 11
第一銀行 小見波隆潮：株式会社第一銀行，第一銀行，1930. 11
第一銀行八十年史編纂室：第一銀行史（上下巻），第一銀行，1958.
鈴木莊太郎，濱松義雄：長野博士作品集，建築世界社，1928. 7
村松貞次郎，藤森照信：日本の建築 [明治大正昭和] 3，三省堂，1979. 2
伊藤三千雄，前野堯：日本の建築 [明治大正昭和] 8，三省堂，1982. 8
辰野金吾，葛西萬司：家屋建築實例第壹巻之圖，須原屋書店，1908. 9，日本建築学会図書館デジタルアーカイブス：辰野文庫，
http://www.aij.or.jp/dal/bunko/pdf/J7010597_01.pdf（参照 2016-3-10）
神奈川県立歴史博物館：彩色立面図に見る日本の近代建築 - 銀行・オフィスビルから邸宅まで - ，2010. 2
清水建設株式会社ホームページ：清水建設二百年作品集，
<http://www.shimz.co.jp/200th/sakuhin/200-sakuhin-n18811914.html>，

（参照 2016-4-22）
鈴木博之，初田亨：図面でみる 都市建築の明治，柏書房，1990. 4

16) 稲垣栄三：日本の近代建築，p. 18，p. 78，p. 66，中央公論美術出版，2009. 9

17) 田中實：現今の銀行會社建築の實際，建築世界，第九巻第四号，現代模範建築銀行会社号，pp. 57-65，建築世界社，1915. 4，「要するに注文者と云ふものは現今の所では建築の眼のない故に、何うしても世の中一般が進んで来て建築思想を持って来てくれなくては困る。」と述べている。

18) 曾禰達藏：銀行會社の建築に就て，建築世界，第九巻第四号，現代模範建築銀行会社号，p. 14，建築世界社，1915. 4，
葛西萬司：銀行の建物，建築世界，第九巻第四号，現代模範建築銀行会社号，p. 17，建築世界社，1915. 4，
池田稔：銀行會社の外觀，建築世界，第九巻第四号，現代模範建築銀行会社号，p. 40，建築世界社，1915. 4，
稲垣栄三：近代建築史研究，p. 23, 28，中央公論美術出版，2007. 6
稲垣栄三：日本の近代建築，pp. 85-87，中央公論美術出版，2009. 9
藤森照信：日本の近代建築（上）-幕末・明治篇-，pp. 224-235，岩波書店，1993. 10
藤森照信：日本の近代建築（下）-大正・昭和篇-，pp. 4-52，岩波書店，1993. 11

19) 桐敷真次郎：明治の建築，pp. 61-170，本の友社，2001. 4
稲垣栄三：日本の近代建築，四 明治時代の建築，pp. 57-95，中央公論美術出版，2009. 9
稲垣栄三：近代建築史研究，pp. 7-27，中央公論美術出版，2007. 6
村松貞次郎：日本近代建築の歴史，pp. 78-99、126-159，岩波書店，2005. 4
藤森照信：日本の近代建築（上）-幕末・明治篇-，岩波書店，1993. 10

20) 太田博太郎，藤井恵介：日本建築様式史，pp. 130-149，美術出版社，1999. 8
鈴木博之，五十嵐太郎，横手義洋：近代建築史，pp. 98-128、154-170，市ヶ谷出版社，2008. 10

21) 村松貞次郎：日本の様式建築（新建築 1976 年 6 月臨時増刊），様式建築再考，新建築社，1976. 6

22) エミリー・コール：世界の建築様式 (A Concise History of Architectural Styles)，ガイアブックス平野陽三，2009. 10

23) 葛西萬司：建築世界，第九巻第四号，現代模範建築銀行会社号，銀行の建物，p. 19，建築世界社，1915. 4

24) 西村好時：銀行建築，第二章 銀行建築，p. 16、28，丸善，1933. 12

25) 西野蕙之助，池田稔，大熊喜邦ほか：建築世界，第九巻第四号，現代模範建築銀行会社号，建築世界社，1915. 4

26) 長尾重武：G・B ヴィニョーラ 建築の五つのオーダー，pp. 3-33，中央公論美術出版，1984. 1，ヴィニョーラによる 5 つのオーダーシステムの解説

注

注 1) 研究対象として銀行法の施行の 1928 年時点で設計または着工されていた銀行建物を含めるため、工事期間を考慮して 1929 年竣工・開業までを画期とした。

注 2) 後藤新一：日本の金融統計，表 30 の 1 全国普通銀行主要勘定，表 31 の 1 五大銀行主要勘定，pp. 86-91，東洋経済新報社，1960. 7
上記資料をもとに以下は筆者纏め。

年	全国普通銀行		五大銀行	
	総預金	貸出金	総預金	貸出金
1900	437	662	78	77
1910	1, 186	1, 250	255	215
1920	5, 827	5, 903	1, 570	1, 236
1929	9, 292	7, 246	3, 210	2, 013

（単位：百万円）

注 3) 国内銀行の銀行数と銀行店舗数については、日本銀行統計局：明治以降 本邦主要経済統計，64、65 全国銀行主要勘定，66 私立・普通銀行主要勘定，67 貯蓄銀行主要勘定、68 特殊銀行主要勘定，pp. 194-205，から国内銀行数を調査。合わせて横浜正金銀行、日本勧業銀行の店舗数は各銀行史から、農工銀行の店舗数は一県一行として国内銀行の店舗数を調査算出。五銀行の店舗数および調査期間の開業店舗については、参考文献 13) 五銀行の銀行史の本文、文中資料、年表より調査。

注 4) 第一銀行 横濱支店，1911 年 6 月竣工，設計：清水組・北村耕造，施工：清水組，建築寫眞類聚 銀行會社 巻一，p. 27，洪洋社，1916. 4

注 5) 総務省統計局：12-4 道路延長及び舗装道路（明治 27～昭和 10 年）より。日本における本格的な道路の近代化計画は道路法が制定される 1919 年からで、1936 年時点での国道舗装率は 13. 9%、都道府県道と市町村道を合わせた全体の道路舗装率は 0. 93%だった（上記資料より筆者算定）。

A STUDY ON BANK BUILDINGS CONSTRUCTED BETWEEN 1890 AND 1929

Common architectural elements in the external appearances of the buildings of Japan's five major banks

Hiroshi NAKAMURA * and *Michihiko SHINOZAKI* **

* Grad. Stud., Graduate School of Engineering and Science, Shibaura Institute of Technology, M. M.O.T.

** Prof., Dept. of Engineering and Design, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng.

The history of bank buildings in Japan commenced with the establishment of the First National Bank in 1872. To date, only minimal research on the historical changes in the bank buildings constructed between 1872 and present day has been conducted.

Focusing on building exteriors, this study aims to examine the common architectural elements in the bank buildings constructed between 1890 and 1929. This study serves as an introductory account of the historical changes in the bank buildings constructed between 1872 and present day. The Western European-style architecture introduced by the Meiji-period policy belonged to the 19th-century European eclecticism.

Therefore, no building in that period was constructed in a unified architectural style.

This eclectic architectural style was possibly not appreciated by the Meiji-period society. It can be presumed that people who looked at bank buildings did not look at the architectural style but rather appreciated distinct parts of the buildings' exterior.

Therefore, this study extrapolates the architectural elements of the exteriors of the buildings constructed in the classical style and contrasts these elements with examples of such bank buildings.

Thereafter, on the basis of the results, this study discusses the common architectural elements in the bank buildings constructed between 1890 and 1929.

The buildings of the five major banks in Japan (Mitsui, Mitsubishi, Sumitomo, Yasuda, and Daiichi) constitute the research subjects of this study. The period chosen ranges from 1890 (when commercial banking started) to 1929 (after the Order for Enforcement of the Banking Act). Herein, 20 different architectural elements related to the exteriors of 121 individual buildings were examined and the architectural elements common in the exteriors of various buildings were analyzed.

The results reveal that corner lots, window grilles and railings, exterior stone, basements, perrons, architectural orders, cornices, reliefs, and flat roofs are found in over 60% of the buildings.

Considering the understanding of historical design and trends that it offers, this study can serve as a guideline for the construction of future bank buildings with new, creative designs.

(2016年6月9日原稿受理, 2016年11月10日採用決定)